

# 令和5年度（2023年度）第5回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和5年（2023年）12月9日（土）9:30～12:00
場所	川口中学校 東校舎1階 被服室
出席者	参加者：荒井、荒木、大島、高野、田倉、外山、中村、浜中、平井、前川、山口 高齢者あんしん相談センター川口：乙幡、小林、太田 高齢者あんしん相談センター恩方：長内 はちまるサポート川口：小峯 川口中学校校長：鷺尾 青少年若者課（子ども・若者育成支援センター）：井垣 地域づくり担当：新納、伊東、興梠、三井、松下、和田
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1_活動団体（地域づくり団体）の設立に向けた検討</li> <li>資料2_活動団体（地域づくり団体）の会則（案）</li> <li>資料3_テーマ別意見交換</li> <li>参考資料_八王子市地域づくり団体の届出に関する要綱</li> </ul>

## 1 開会

事務局より挨拶、資料確認。

新規参加者1名（浜中氏）をご紹介します、ご挨拶をいただいた。

## 2 事務局からの報告

### ○ 第2回八王子市地域づくり推進基本方針改定懇談会について

〈説明内容〉

- ・ 10月27日開催の第2回懇談会では、基本方針の改定に向けて、事務局からとりまとめていきたい内容の骨格をお示しした。
- ・ 新しい基本方針には、地域づくり推進事業の必要性を明示したうえで、推進会議のあり方と地域自治が目指す姿について盛り込みたい。
- ・ 新しい地域づくりの形としては、「楽しい」「満足」と感じられる取組を継続して行うことの重要性や、推進会議をコアにしながら地域が緩やかにつながることで、地域内外の資源を活用しながら魅力的な取組を行うこと、地域が抱える困りごとについても解決の糸口を見つけて行政につなげる役割を果たすことなどを柱として示している。
- ・ 改定に向けた具体的な作業としては、推進会議の検証ということを大きく掲げ、本日実施する推進会議参加者向けアンケートのほか、市民向けのアンケートを実施している。アンケート結果等の分析を踏まえて庁内外での議論を深めながら、新しい地域づくりの形を検討していきたい。
- ・ 次回の懇談会は1月に実施する予定。

〈懇談会参加者である荒木氏からの報告〉

- ・ 推進会議の検証という話があったが、まずは地域づくりの目的が何なのかを明確に示す必要があるということを伝えた。
- ・ 懇談会では各中学校区から現状の課題を話すタイミングがあり、川口中学校区としては、

檜原中学校校区との同一課題や連携が多くあり、モデル地区だからこそ2中学校区合同で推進会議を設置するという形があってもよいのではないかという問題提起を行った。

- ・ 推進会議は地域が抱える課題について話し合い、解決に向けた取組につなげるものであるが、課題についてどのように解決していくのかを議論する時間をこれまで確保できていないという現状を伝えた。
- ・ 懇談会全体の議論としては、推進会議を中心に地域のつながりを作っていきながら、継続的に取り組むことができる活動により、地域が抱える課題の改善・解決に少しでもつながっていけばいいということで、強制ではなく、楽しく好きなことに取り組むことが良いという話になっている。しかし、地域の課題解決に向けた取組を行うには、組織体制や責任も必要であり、どのような体制や行政からの支援が必要かといったテーマも取り扱う必要があると感じている。市には、そのようなバランスのとれた基本方針をまとめてもらいたい。

- 推進会議参加者を対象としたアンケートの実施について  
現在進めている地域づくり推進基本方針の改定にあたって、推進会議に参加していただいている方々の意見をしっかり反映して地域づくりのあるべき姿を検討していくため、アンケートを実施した。

### 3 活動団体（地域づくり団体）の設立に向けた検討

- 活動団体の設立に向けた検討後の推進会議の進め方について  
資料1を用いて、事務局より以下のとおり説明した。

〈説明内容〉

- ・ 現在は行政の枠の中にある推進会議とは別に、活動しやすくするための団体の設立に向けた議論を行ってきており、前回の推進会議では部会ごとに分かれて、この団体の会則について検討していただいた。
- ・ 本日の推進会議では前回の検討内容も踏まえて引き続き会則の検討を行い、会則の内容について皆さんで合意できれば、次回3月9日開催の推進会議の中で団体の設立総会を行い、最終的な会則の承認や役員の承認などの手続きを行って団体の設立という形をとりたい。
- ・ この団体設立の議論が整理できたら、活動は設立した活動団体で行いつつ、推進会議は議論や情報共有の場として、現状の地域課題に関する話や地域の情報共有、将来的な川口の「地域自治」といったことなどを話し合う時間を確保していきたい。

- 「八王子市地域づくり団体の届出に関する要綱」について  
設立した活動団体（地域づくり団体）を市に届け出ることについて、その手続きを定める要綱（「八王子市地域づくり団体の届出に関する要綱」）が12月1日付で施行となったため、資料として配布し、要綱の概要について説明を行った。

〈説明内容〉

- ・ この要綱は、推進会議の取組をもとに活動するための団体（地域づくり団体）を設立した場合に、それを市に届け出てもらい、市が要件を確認したうえで、団体に対して確認書を交付するという手続きを定めているもの。
- ・ 第2条「届出の対象となる団体」の第1項各号で、推進会議としっかり連携して、推進会議の議論をもとにした活動を行う団体が届出を行うことができるということを定めてい

る。また、第2項では、推進会議に対して活動団体はひとつを基本と定めており、プロジェクトごとに複数の団体を立ち上げるのではなく、ひとつの団体の中で様々なプロジェクトを行っていくということになる。

〈意見〉

- ・ 要綱第2条において「当該中学校区を単位として～」と記載されているが、橿原と川口を合わせて川口地区と考えるなど、地域によっては中学校区をまたいで取組を進めていくことが必要になる。その場合この文言と合わなくなるがいいのか。
  - ⇒ (市)「八王子市地域づくり推進会議モデル試行実施要綱」において、推進会議は「原則中学校区を単位として」と定めており、中学校区をまたぐような形も想定しているので、中学校区をまたいで取組を進めていくことは問題ない。
  - ⇒ (参加者)中学校区で分けると地域が分散されるので、もっと自由にできるようにした方がいいとずっと言っているが、文章でこのように書かれてしまうことは気になる。
  - ⇒ (市)基本は中学校区という単位で地域づくりを進めているが、中学校区をまたぐ形も問題なくできる要綱にしている。この考え方については、内部で作成した要綱の逐条解説(要綱の解釈について記載したもの)においても明記している。
- ・ 市の考え方として、市民センターの17館構想があり、住民協議会もあるのに、それとは別の組織をつくることは無駄ではないか。いまある組織をどのように活性化させていくかを考えていくべき。
  - ⇒ (市)本日そのようなことを話し合う場として「テーマ別意見交換」の時間を設けている。その中で議論していきたい。

○ 会則の検討

資料1及び資料2をもとに、事務局より前回検討した会則の内容を振り返りつつ、役員会での議論について説明した。

〈説明内容〉

- ・ 第1条 名称については、他の項目が決まってから議論する。
- ・ 第3条 事務所については、前回マルシェ部会から提案いただいた福德の住所を使用させてもらうことで調整できればと考えている。
- ・ 第6条 会員については、前回、地域防災部会から「橿原・犬目・笹の原・唐松も一緒に活動できるように居住の文言は削除したい」との意見があり、第6条第1項第2号の「第2条に掲げる区域に居住、または、事業活動、通勤、通学、その他活動をしており」の文言を削除した。そのため、川口中学校区域との関わりに関係なく、活動に加わりたい人・団体が会員となれる内容になっている。
- ・ 第7条 会費については、役員会での議論では、会員が必ず納めなくてはならない「会費」ではなく、自由に納めることができる「協賛金」という形がいいのではないかとということになった。
- ・ 第10条 役員については、前回、役員の選出方法について意見が出ていたが、役員会の議論では、会長についてはできるだけ「みんなで選んだ」という形が残る方がいいのではないかとということになった。そのため、会長・副会長は総会において会員の中から互選により選出、その他の会計や監査役は会員の中から会長が指名して総会の承認をもって選任するという内容にしている。

- ・ 部会について、第 14 条で「会員は希望する部会に任意に参加することができる」としており、複数の部会に参加することも可能としている。
- ・ 資料 2 の会則案で赤字にしているのが前回の推進会議（10/14）で配布した会則案からの変更点。前回の推進会議で議論した内容（第 1、3、6、7、10 条）のほか、総会や役員会の記載に関して会の成立要件など細かな内容を追加している。

〈意見〉

- ・ 「協賛金」だと活動に賛同して支払うものになるため、活動を手伝わなかった場合に「なぜ活動に賛同するのに手伝わないのか」と不満につながってしまう恐れがある。「協力金」とすることで、活動に協力するためにお金を支払うというニュアンスになると思うので、「協力金」にすべきでは。
  - ⇒ （市）協力金とすることに異議がなければそのように修正する。
  - ⇒ （参加者）異議なし。
  - ⇒ （市）協力金とする。
- ・ 第 15 条で協力金を経費に充てることができることと定めているため、第 7 条で協力金を納めることができると定める必要はないのではないか。
  - ⇒ （市）第 7 条を削除する。
- ・ 第 15 条の中に、経費に充てられるものとして補助金を書いてあるが、市から地域づくり団体への補助金はどの程度の金額で考えられているのか。プロジェクトによっては高額な経費がかかる場合もあり、魅力的な活動を展開していくためには資金は重要。
  - ⇒ （市）市から地域づくり団体の事業に対する補助金は、予算決定前のためなんとも言えない。プロジェクトによっては市の補助金だけでなく、国や都の補助金など活用できるものがあると思うので、様々な補助金等の活用について市もサポートしていく。
  - ⇒ （市）団体の会則について他にも意見がある場合には、後日で構わないので言ってほしい。

## 4 各部会の活動状況等の共有

### （1）地域防災部会

- ・ 11/6 に第 6 回の部会を開催し、ハザードマップに掲載する内容について検討した。掲載する情報としては、避難場所や避難経路、消火器、AED、狹隘道路、危険な個所など。高齢者や障害者、外国人、子どもなど様々な人を対象にした情報を載せるように考えており、例えば外国人の方にもわかりやすいようにピクトグラムを入れるといった意見も出ている。
- ・ 3/23 に開催する防災教室について、各団体への連絡調整を始めている。また、防災教室ではロープワークを行うが、町会長など（10 名程度）には事前に講習を実施し、当日は指導していただくようにする予定。
- ・ 防災教室当日の流れとしては、まず推進会議で地域防災部会ができた経緯や今後の方向性などについて説明し、訓練に入る。また、参加者からハザードマップに掲載したい情報などの意見をもらう予定。

### （2）マルシェ部会

- ・ 12/2、3 に第 5 回川口マルシェをアルプスで開催した。マルシェでは橿原との連携を意識しており、橿原中学校区の人にも出店者として参加してもらったり、橿原青少対のイベントと

コラボしてスタンプラリーを実施したりした。スタンプラリーでは、橿原青少対において景品としてマルシェで利用できる割引券を発行してもらった。地域の人々に対して川口マルシェの周知になっただけでなく、橿原青少対のイベントの集客（300 人ほど参加）にもつながった。

- ・ アルプスにも 500 本ジュースをご提供いただき、マルシェで買い物をした人に配布した。
- ・ 高齢で出店を諦めていた地域の方にもサポートを行うことで出店してもらうことができ、その方のやりがいにつながった。また、そのやり取りの中で世代間の交流を生むことができた。
- ・ 子育て中で出店が難しい方からの相談を受け、作品を預かってマルシェの中で作品を紹介するブースを設けたところ、その方からインスタグラムのフォロワーがかなり増えたと感謝された。そこから川口マルシェのインスタグラムを知ってもらうきっかけにもなるので、お互いにとって良い展開になった。
- ・ 次回は5月に開催予定。

## 5 情報共有等

### ○ 地域の活動に関する共有

- ・ 川口地区町会自治会連合会で、川口地区の協力事業者一覧表を作成した。水道管の破裂などのトラブルの際の活用や、悪質な訪問販売への対策のため。川口地区町会自治会連合会の全戸に配布する。また、令和6年度（2024 年度）は、新たな物を作成しようと進めている。
  - ⇒ （参加者）市役所でも配布されているか？
  - ⇒ 市役所には置いていない。町会加入者へのメリットをつくる意味もあるため、戸別配布のみとしている。
- ・ 川口子ども食堂を第1・第4土曜日に川口事務所等で開催している。（12 月は第2・第4土曜日に開催した。）
- ・ 松枝小学校の児童を対象として、毎週金曜日に唐松町会会館を利用して朝ごはん（おにぎり）提供の活動を行っている。市から学校運営協議会に依頼された「おにぎり大作戦」という施策（困っている子に給食室でつくったおにぎりを渡すもの）を、少しやり方を変えて行っているもの。学校給食の規格に合わずに廃棄予定となった食材も活用している。川口は農家の多い地域でもあると思うので、何かあればお知らせいただきたい。
- ・ 1/20 に川口やまゆり館の体育室で、川口青少対と橿原青少対の共催で、「リズムミッション winter LIVE」を開催する。子どもから高齢者まで楽しめる内容。今後町会の方々にも御協力いただきチラシ配布やポスター掲示を行う予定。
- ・ 高齢者あんしん相談センター川口では、センター便りを毎月発行しており、町会の回覧板で回覧していただいている。介護予防教室などイベント情報も掲載しているので、ご覧いただけるとありがたい。

### ○ 来年度の推進会議の日程について

来年度の日程については、『「地域づくり推進基本方針」改定に向けた推進会議参加者アンケート』に記載いただいた内容のほか、学校行事等も考慮して市で決定する。他に配慮が必要なこと等あれば申し出てほしい。

## 6 テーマ別意見交換

資料3に記載のテーマから、各参加者に希望のテーマを選んでいただき、テーマごとにグループをつくって意見交換を行った。

〈グループ〉

- (1) 町会自治会など既存組織と推進会議、川口の地域自治の姿
- (2) 獣害対策・農地活用
- (3) 空き家活用

〈各グループにおける意見交換内容〉

- (1) 町会自治会など既存組織と推進会議、川口の地域自治の姿
  - ・ 地域には町会や住民協議会、学校運営協議会など様々な組織があるが、同じ人が担っていることが多い。
  - ・ 様々な組織で活動することは負担にもなるが、地域のいろいろな組織の人と知り合うことは、新しい活動（マルシェなど）を行うときに活動がスムーズに行えるので良かったと思う。
  - ・ 行政と地域の関係では、行政が大きくなる一方で、地域でできることが小さくなっている。スピード感や効果を考えると、地域でできることは地域でやった方がいい。それに対して行政が補助金等で支援してくれれば。
  - ・ 町会加入率が低下していることについては、ごみの戸別収集をきっかけとして、加入のメリットがなくなっていることによる。フリーライド問題もある。
  - ・ 住民協議会では様々な活動を行っているが、稼ぐことができない。活動によって稼いで、地域で雇用を生み出すような動きにできたらいい。
- (2) 獣害対策・農地活用
  - ・ 農地活用に関しては、荒廃農地や生産緑地、市街化調整区域などで農地の資源はある。実際、新規就農者もあり、宗兵衛裸麦を使ったクラフトビールや、桑のリキュールなど6次産業化を目指す取組も興っている。
  - ・ ただ、そういった活動を進めていくには、資金の問題や大きな農機具を入れられないなどの課題もある。
  - ・ 最大の課題としては、新規就農者が参入しやすい環境をつくることとして、獣害対策や、農地所有者が貸借を行うことのメリットをつくることなど。こういった課題に対して、行政も含めて関係する様々な人たちで話をしていく必要がある。
  - ・ 障害者等の農地での就業など、農福連携を進めていくことも考えられる。
- (3) 空き家活用
  - ・ 地域の居場所づくりの一つとして空き家活用を考えたい。
  - ・ 空き家の活用方法としては、家に自分の部屋がない子などに使ってもらうための自習室や、子ども食堂、駄菓子屋など。
  - ・ 推進会議として、このように空き家を活用していきたいということを発信することで、賛同してくれる人もいるかもしれない。
  - ・ 課題としては、空き家は住宅街の中にあるので、静かな生活を望む人たちの意見も尊重する必要がある。そのためにも、きちんと関係性をつくっていきながら活動する必要がある。

ある。その他、空き家の管理方法なども課題。

- ・ また、地域の居場所づくりとしては、空き家活用の他にも、町会会館を、曜日を決めるなどして町会加入非加入に関わらず開放することなども考えられるのでは？

〈事務局より〉

地域の課題にしっかりと対応していくため、今後もこのような検討を継続していくので、次回以降、このような議論に興味のありそうな方にお声がけいただきたい。必要であれば事務局も一緒に説明に伺うので、教えてほしい。

⇒ （参加者）川口の文化財の魅力を広める取組として、法連寺とはぎ寺と一緒に、イベントの計画を立てている。こういった取組も推進会議の中で行っていくことで広がっていくと思う。

## 7 閉会

〈事務局より〉

活動団体（地域づくり団体）で住所を使わせてもらう福德について、店舗2階のスペースを会議等で使っていいとお話いただいている。有志の方と一緒に福德2階の掃除をできればと考えているので、後日メールにて連絡させていただく。

以上